
甘い口づけ

ありま氷炎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

甘い口づけ

【Nコード】

N4260S

【作者名】

ありま氷炎

【あらすじ】

「花の島の秘密」の登場人物、花村マサシとカオルのバレンタイン話。*ブログで完結後、なろうへ掲載します。

「ちよつとこれなに？」

お賽銭箱に入ったチョコレートを見て神元カオル、もとい花村カオルは旦那のマサシを睨みつけた。

「えっと、チョコレートですね」

「なんでお賽銭箱にチョコレートが入ってるの！しかもいっぱい」

「さあ、なんででしょう？」

マサシは中学を卒業した後、高校に進まず、そのまま神主をして神社に住んでいた。カオルと結婚してからはマコたちの勧めもあり、北守の隣の家に新居を構えた。

しかしマサシの美形ぶりは島や観光客には有名で神社に年齢に問わず女性が押し掛けた。したがってラブレターもどきのものが神社に届けられるのは日常茶飯事だった。カオルもそのうちの1人なので自分が自分のことを棚にあげて、マサシに押し掛ける女性を見るとカオルは牽制していた。

「マサシくんは食べないでよね。私の愛情たっぷりのチョコレートだけで十分なんだから。」

「え、じゃあ捨てるんですか？」

「捨てないわよ！私が食べるの！」

「え！？全部ですか？」

「うん」

「カオルさん、やめてください。妊婦がそんなにチョコレート食べたら妊娠中毒症になってしまいますよ！」

「じゃあ、どうするのよ！」

「ヨウスケくんにあげましょう」

「はい、ヨウスケくん」

ニッコリ笑顔で大量のチョコレートをカオルから手渡され、ヨウス

ケは驚いて目を開いた。

「これ、どうしたんですか？」

7歳とは思えない丁寧な言葉遣いでヨウスケは戸惑ってカオルをみた。

「バレンタインでしょ。ヨウスケくんかわいいからあげるわ」

カオルがそう言うつとヨウスケは少し赤くなった。

「あ、ありがとうございます」

そんなヨウスケに手を振ってカオルは自宅に戻った。

「マサシくん、あげて来たわよ。喜んでいてよかったわ」

「カオルさん、何ていつてあげたんですか？」

「え、『かわいいからあげる』って言うてきたけど」

カオルが顔色を変えずさりとそう答えた。それを聞いたマサシはため息をついた。

「カオルさん、ヨウスケくんをからかわないように。まだ7歳ですよ」

「7歳？もう立派な男の子よ。男の扱いしなきゃ。あとうちのヒトシのお兄さんになってもらわないといけないしね」

「ヒトシ？」

「うん、この子の名前ヒトシって決めたの。きっとあなたに似た綺麗な子になるわね。楽しみだわ」

カオルは長くなった髪のを鬱陶しそうにまとめながらマサシに笑顔に向けた。マサシにカオルの笑顔を眩しそうに見つめながらその肩を抱いた。

「ねえ。キスして」

カオルはその肩に自分の手を重ねながらそう聞いた。マサシはカオルを自分の胸に抱くと、口づけた。

「甘い」。ちよつと甘く作りすぎたかしら」

カオルはマサシの唇から唇を離すと顔をしかめた。

「甘くないよ。丁度いいくらい」

マサシはそう答え、微笑むと再度カオルに口づけた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4260s/>

甘い口づけ

2011年7月13日16時45分発行